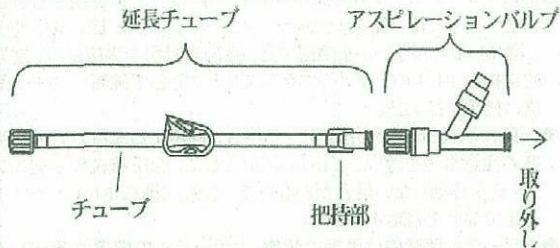


トロッカー アスピレーション キット

再使用禁止

【警告】

1. 延長チューブからアスピレーションバルブを取り外す際には延長チューブの把持部を持って外すこと。[延長チューブの把持部ではない箇所ではチューブをひねったり、過剰な力が加わると接着部の剥離や外れ、ルーアアダプターの外れ等が発生し、空気の混入により気胸が発生するおそれがあるため。]



2. 積極排液(排気を含む)をする場合は、使用前にアスピレーションバルブを注射筒で吸引し、バルブが開くことを確認すること。[バルブが閉塞していると吸引不良により緊張性気胸が発生するおそれがあるため。]

【禁忌・禁止】

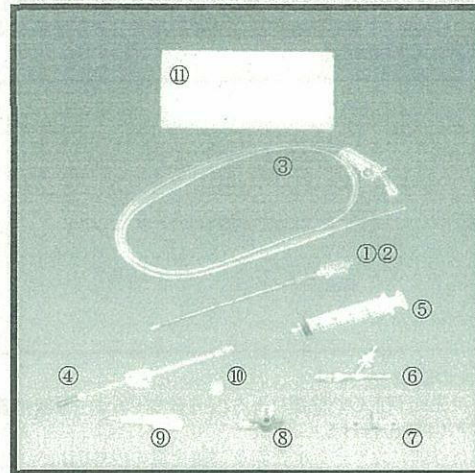
1. 再使用禁止
2. 再滅菌禁止
3. 低圧持続吸引あるいは自然排液(排気を含む)移行時には、アスピレーションバルブを使用しないこと。[アスピレーションバルブを接続して使用すると、バルブ内の逆流防止弁閉塞による吸引不良により緊張性気胸が発生するおそれがあるため。]
4. カテーテル、接続部位あるいは穿刺挿入部位の消毒等に、アルコール含有薬剤もしくは脱脂目的のアセトン等の有機溶剤を使用しないこと。[薬剤との接触で強度が低下し、亀裂あるいはひび割れ等が生ずるおそれがあるため。]
5. 縫合糸でカテーテルを直接固定しないこと。[カテーテルに引張力が加わった場合に破断するおそれがあるため、カテーテルの固定は、セットの固定翼を使用すること。]

【形状・構造及び原理等】

本品はカテーテルを胸腔あるいは腹腔等に留置し、積極的及び又は持続的に排気・排液するためのキットである。同梱されている製品は直接の包装に記載している。

キット内容

①カテーテル	外径mm(Fr): 2.0(6)、2.7(8)、4.0(12)
	長さcm: 9、20
②穿刺具(套管針)	
③排液チューブ	
④延長チューブ	
⑤注射筒(シリンジ)	
⑥アスピレーションバルブ	
⑦固定翼	
⑧三方活栓	
⑨皮膚切開用刀(スカルペル)	
⑩プラグ	
⑪ドレープ	



<原材料>

カテーテル:ウレタン樹脂

【使用目的、効能又は効果】

胸腹部排気排液用。

本品は、胸腔内又は腹腔内に留置し、持続的な排気・排液を目的とするカテーテルのセットである。なお、本品は、滅菌済み単回使用製品であるのでそのまま直ちに使用できるが、1回限りの使用で使い捨て、再使用しない。

【操作方法又は使用方法等】

1. 注射筒(シリンジ)による積極排液(図1)

- 1) 皮膚を消毒し局所麻酔薬を適切な深さまで浸潤させ、胸腔に体液等が貯留していることを確認する。
- 2) あらかじめセットの接続状況を確認する。なお、延長チューブのクランプを閉じておく。
- 3) 穿刺部位にあらかじめスカルペルで小切開を加える。
- 4) カテーテル(套管針付き)にシリンジを接続し、目的の深さまで刺入したのち内容物を吸引し、カテーテルの先端が正しい位置にあることを確認する。[シリンジを操作する際はカテーテル(套管針付き)の先端が動かないよう、カテーテルの刺入部を穿刺針の上から確実に把持しながら行うこと。]**
- 5) カテーテルの手元近くを軽く指で押さえて空気の流入を防ぎつつ穿刺具(套管針)を抜き、手早く延長チューブをカテーテルに接続する。
- 6) カテーテルの留置期間が長期にわたる場合はカテーテル刺入部に抗生物質入り軟膏を塗布し下記「3.カテーテルの固定」の方法により皮膚固定する。
- 7) 排液チューブのバブル(ふくらみ)をカットし、接続する。[接続が深めの場合、バブルを短めにカットする。接続が浅くなり過ぎた場合、新しい排液チューブを使用すること。]
- 8) 穿刺に用いたシリンジ(必要により容量の大きなものと交換すること)をアスピレーションバルブに接続する。
- 9) シリンジを操作して吸引・排液を行う。

